総務文教常任委員会会議録

（令和６年７月３１日）

愛　南　町　議　会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議　令和６年７月３１日（金）
招集場所　議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	池田栄次
委員	金繁典子	委員	佐々木史仁
委員	中野光博	委員	那須芳人
委員	吉村直城		

欠席委員
なし

出席委員外議員
なし

傍聴委員外議員
なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	主幹	小松一恵
係長	山口昌		

説明のため出席した者
（総務課）

主幹	上田耕平	課長補佐	本多大輔
主査	加藤謙太郎		

本日の委員会に付した案件
（１）所管事務調査（机上審査）
□「ＤＸの促進について調査研究」

開　会　9時00分
閉　会　9時38分

○池田副委員長　おはようございます。ただいまより総務文教常任委員会を開催いたします。最初に、委員長、挨拶をお願いいたします。

○石川委員長　おはようございます。連日暑い日が続いて、また、オリンピックの観戦で、皆さん、寝不足ということもあろうかとは思いますが、くれぐれも体調には十分留意をされて、熱中症などにならないように気を付けていただいたらと思います。

早速ですけども、先般の視察を終えて、このＤＸについて委員会を開催したところ、皆さん全員の御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。議事の進行について、スムーズな進行に御協力いただくとともに、建設的な御意見を賜ったらというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○池田副委員長　続きまして、議事進行を、委員長、お願いいたします。

○石川委員長　はい。早速ですが、先般の黒潮町の視察を終えまして、委員会の中でも帯同をいただいた職員の方に、感想と意見を伺いたいということで、本日は、総務課の上田主幹、本多課長補佐、加藤主査が御臨席いただいていますので、早速ですけども、感想等ありましたら発言をお願いします。

上田主幹。

○上田総務課主幹　失礼します。私のほうからは、主担当ではないんですけど、組織の総務担当として感想を述べさせていただきたいと思います。

まず、黒潮町としましては、専任のデジタル担当、また外部の有識者を配置しているということで、非常にスムーズに進んでいるのではないかというふうに感じております。で、一方、愛南町としましては、今、電算担当が様々な業務を兼務という形で担当しておりますので、なかなか進めにくいという状況になっております。また、中身につきましても、愛南町が進めようとしておりますＤＸについてと少し違うものも配備されていたりしましたので、その辺りは、今後愛南町が配備するものの参考として有意義な視察になったかと思います。また、良く思われましたのが、職員の研修について、毎月１回研修をされているということがありましたが、この点については愛南町も見習うべきがあるかと思います。まず、職員のレベルアップを図り、それから町民の皆様も、そのデジタルについての知識、また皆様が使いやすいような形でお互いがレベルアップを図ることでＤＸも推進されるのではないかと思います。そういったところが私の所感となります。以上です。

○石川委員長　ありがとうございます。

本多課長補佐。

○本多総務課課長補佐　失礼します。愛南町の方でＤＸを今年度から担当しております本多と申します。私のほうは、黒潮町の視察を経まして、まずは体制づくりが一番大事だなっていうのを感じました。黒潮町の取組はさすが最先端ということで、書かない窓口であったり、また、システムありきではないですけど、手続の長さによってブースを分ける、それから職員に対する研修など様々な取組ができていて、愛南町のほうでもまねができるもの、取り組むべきものというのは感じました。

ただ、黒潮町の中での説明にもありましたように、守りと攻めというのをどちらも１人の人間がやることは無理だという説明があった中で、実際のところは、愛南町は上田主幹も申しましたように、電算係と私とで守りと攻めを１つの係でやっているような状態となります。で、当然、その専属ではございませんので、こちらは様々な電算機器の管理を１人で行っている中で、ＤＸ部分についても担当してもらっている。私のほうは行政係が主になりますので、法制執務だとか区長さん方の地域支援というところが一番上がってくるとこなんですけれども、それに加えて、ＤＸを今年度から併用して持っているというところがあります。

で、様々な、愛南町においても、書かない窓口については、実は去年から各課の担当者をちょっと集めてワーキンググループという形で話合いをしてきました。あくまでシステムありき

ではなくて、住民も職員も動かなくていい、１つのブースで手続が完了できるという形での取組として検討を進めているところで、今年度また新たに理事者の許可も得ましたので、実際、じゃあどこの部に、部署にどのような形でどういう配置をしていくのかっていうのをまた検討していきたいとは考えているんですが、それらについても、やはり専属のＤＸ担当というものがおりませんので、併用しながら進めていくというところで、なかなか遅々として進んでいないという状況があります。

で、上田主幹が申しましたように、職員の研修、ＤＸ知識の共有というものもすごく大事で、今のところ愛南町の中では、どちらかというとボトムアップではなくて上からの指示等でＤＸを進めていくというところがありますので、なかなか現場においてもそれが浸透しない、せっかく整備しても使われていかないというところも実際ございます。それらを解消するためには、職員にとっても住民にとっても利便性の高いものというものを整備していく必要がありますので、まずはそれらを実際実務としてやっていくことになる現場の職員を巻き込んで、どういうメリットがあって、逆にどういうデメリットがあってというのを現場の職員と一緒に話しながら、じゃあやっていきましょうかという形で理事者に話を持っていって事業を進めていくというやり方でないと、結局は使われないような制度になってしまうんじゃないかというおそれがあります。

で、それらを含めて、黒潮町さんの取組は、やはりトップの方の意気込みもあったとは思うんですけれども、かなりもう進めるという前提で、いろんな職員を巻き込んで勉強会も繰り返して、少しずつ意識を変えていっているというところがありましたので、愛南町においても体制づくり、それと職員との情報の共有っていうところをまず進めていく必要があると感じました。以上です。

○石川委員長　ありがとうございます。

加藤主査。

○加藤総務課主査　失礼いたします。私のほうからの感想としましては、本多課長補佐、上田主幹と重複するところがあるんですけども、黒潮町と愛南町の一番の違いとしましては、体制の構築というところが一番大きいなと感じました。

愛南町のほうが、先ほども申しましたとおり、庁内のネットワークの管理をしております、総務課のほうが兼務としてですね、そのＤＸの検討も進めているという状況なんですけども、黒潮町、そのような体制ですと、黒潮町さんのように、各課の意見を吸い上げた上で本当に必要なものの導入というところになかなか辿り着かないんじゃないかなというふうに感じました。

ツールとして見た黒潮町さんでも入っております書かない窓口等につきましては、愛南町のほうも現在導入を検討しているところではあるんですけども、そこに行き着くまでの過程として、実際庁内担当が必要としているかどうかみたいな意見の吸い上げというのが、やはり毎月行っている勉強会なりミーティングなり、そういったところで検討されたものではないと、やはり本当の必要性というのはなかなか確認できないんじゃないかというふうには感じました。

また、その黒潮町さんですと、デジタル技術を導入した上で、ファストパスといいますか、その証明書を発行するためだけの窓口のほうを作っていたかと思うんですけども、デジタル技術を入れるだけではなくて、その技術を生かすための、利便性の向上を図るためのその体制を変えるというところで、そもそもその愛南町の検討過程とは全く違う、その技術を入れて終わりではなくて、そのデジタルをどう生かすかみたいなところまできちんと踏み込んでいるというところは、非常に目指すべき姿といいますか、参考になった部分であると感じました。以上です。

○石川委員長　ありがとうございます。ただいま総務課の帯同された職員の方から感想、御意見いただいたわけなんですが、何か質問等ありましたら。

金繁委員。

○金繁委員　いくつかあるんですけど、１つずつお願いします。今出された愛南町の課題というか、なんですけど、体制づくり、それから職員との共有ということが大きな課題のように聞こえたんですけれども、これは今後、今回の視察を行って役場の内部で共有して、来年度以降なり今後具体的に生かしていくっていうことはどのようにお考えですか。

○石川委員長　上田主幹。

○上田総務課主幹　はい。今現在まだちょっと話合いはできておりませんが、実際に我々も今の現状では進まないというところは認識しておりますので、今回のこの視察を踏まえて、まず理事者と協議をして、体制としての、その本部をですね、まず今の状態では駄目ではないのかということをもう一度協議をさせていただこうとは思います。

で、それによって本部がもしきちっとできたのであれば進められると思うんですけど、いや、もうお前たちでそのまま維持してやれっていう話であれば、正直なかなかその体制づくりといっても、ほかの今の仕事も持っているところではなかなか進めにくいのではないかとは思います。ですので、その辺りでちょっと理事者と協議して、方針がどちらになるかで大きく変わると思います。以上です。

○石川委員長　いいですか。池田副委員長。

○池田副委員長　一点は黒潮町、ＤＸするに当たり、基本計画いうか、あれを作っとるんですよね。将来の町、それに向けてＤＸ化を進めていこうっていうことでやっていると思うんですが、本町ではそういう取組について基本的なことをして、それに基づいてＤＸ化を進めているということでしょうか。

○石川委員長　本多課長補佐。

○本多総務課課長補佐　愛南町ではＤＸ推進計画のようなものは現在ない状態です。その必要性は感じておりますし、主幹の申しましたように、ＤＸ推進会議なりの体制の整備も必要だとは感じております。ただ、現状においてはそれらの整備にまで至っていないというのが実情で、愛媛県がかなり、黒潮町さんも進んでいる、県を主導としてＤＸ体制を整えているというふうにおっしゃっていただいていましたが、確かにそうで、町独自のＤＸ推進会議はないんですけれども、県と市町とでＤＸ推進会議っていうものは、会議体は作っております。

で、県においてはＤＸ関連の部署が複数に分かれて、職員も専属でおりますので、いろいろな提案をしていただいて、またこちらもそれに合わせて共同で進めていくっていうような動きはもう今も実際はしております。ただ、なかなかこちらの業務の関係もあって、正直なところＤＸだけにその注力できるわけではないところからついていくのがやっとというような状態で、ＤＸの協議とか会議、ウェブでよく行われるんですけれども、もう毎週のようにあります。例えば、来週であったらほぼ毎日入っております。なぜかというと、やはり担当課が県のほうでは複数に分かれていることもあり、事業の中がその中でも複数に分かれていて、やはり、実際のところ、会議はなくてもＤＸ関係の情報が来ない日というものはないぐらい、かなりこれには時間を取られるというところがあります。それもあって、やはりせめて専属の職員が１人は必要なんじゃないかなというのがあります。ただ、言い訳にはなりますが、計画体制については愛南町のほうではまだ整備ができていない、ただ、必要性は感じておりますので、今後は設置する必要があるとは承知しております。以上です。

○石川委員長　池田副委員長。

○池田副委員長　もう２点ほど、ちょっと専門知識がないんで的外れな質問になるかとは思うし、ちょっと細かいことなんですが、今、電算室がありますよね。それでシステムが入っておりますよね。デジタル化の、それから、ＤＸを進めていくに当たり、今入っているシステムで、例えばいろんな日報とか公用、細かいことになるんですが、公用車の日報とか使用日報、いろんな、それ以外いろんな帳票がありますよね。それは今のシステムの中で対応ができるんですか。

○石川委員長　加藤主査。

○加藤総務課主査　はい、そうですね。システム内に存在するデータにつきましては、抽出はできるんですけども、先ほど議員がおっしゃられました、例えば公用車の日報となるとですね、公用車の管理をシステムに入れるのは、何時から何時までどこが使いますっていう予約だけでして、どこに、実際何時から何時かって、どこに何キロ走りましたみたいなものは、今のところ紙で管理しております。その公用車の日報用のファイルですとか、そういったものに手書きでつけている状況ですので、役場の活動状況全てをシステムから出せるかと言われると、実際そんなことは今のところできていなくても、あくまでシステムを使っているうちに、そこに溜まっているデータについてはこうシステムから見られるっていうだけのものにはなっております。なので、必要な情報全てがシステム内に入っているかと言われると、ちょっとそういうところまでは達しておりません。

○石川委員長　池田副委員長。

○池田副委員長　そしたら、それは、そういうことを運用する、しようとしたら、システム内に入れるようにはできるんですか。

○石川委員長　加藤主査。

○加藤総務課主査　はい。システムというのが、その各ＮＥＣさんですとかそういった大手のこうベンダー企業さんが構築したものを現在購入の上、ＮＴＴさんなりデンケンさんなりと契約しまして、こうある程度、愛南町がこうこういうふうに使いたいですとか、こういった機能を持たせてほしいというのを、カスタマイズなりですね、こう編集してシステムというのは運用されているんですけども、必要な機能を持たせるという改修はできるものとできないものがある。あくまで元を作っている愛南町ですと、ＮＥＣさんのシステムを多く入れているんですけども、ＮＥＣさんがカスタマイズでここからここまでぐらいだったら出せるようになったり入れるようになりますよっていうものの、あくまで範囲がある程度は決まっているという形ですので、やりたいこと全てがお金をかけてシステム改修をすればできるかと言われると、ちょっとそういうことではないですね。はい。

○石川委員長　池田副委員長。

○池田副委員長　すいません、時間使って。もう一つは、ＤＸ、今からするに当たり、かなりの費用が発生すると、予算が発生すると思うんですが、それって、理想的なＤＸ化するのに愛南町だけでやっていく、黒潮町も、地域連携は幡多地域で連携せんとちょっと難しいんじゃないかっていうような話もあったんですが、その点についてはどのように予想されますか。

○石川委員長　本多課長補佐。

○本多総務課課長補佐　もしシステムを入れることで進めるような事業につきましては、今のところ、デジタル田園都市国家構想交付金というものがあるので、それの認可を受けられれば、町の単費だけでなく、半額の補助がつきながら進められるということはあると思います。

　ただ、実際に住民のニーズとか職員の求めている内容になるのかというものをまずは調べた上で事業展開をしていかないと、実際使われなかったり、なかなか使い勝手が悪かったりっていうところがあると思います。なので、システムありきで考えずに、先ほど申しましたようなワンストップ窓口、システムは入れなくても、マンパワーで１対１で対応することによって、何度も繰り返す説明を繰り返す必要もなくなりますので、時短にももちろんなりますし、書かせる書類も削減できる可能性があります。そういったところから進めつつ、どうしてもシステムも入れるべきだというところについては、デジタルの交付金を使うなり県の人口減少対策の交付金なりなんなりを使うなりでやっていけたらと考えております。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　関連なんですけど、先ほど愛南町、ＮＥＣのシステムを入れているということですが、使い勝手も悪いようなお話も出てきました。大きな、非常に大きな会社で、価格もかなり高い

と思うんですけど、黒潮町でキントーンですかね、サイボウズの話が出ていました。これについでは、あれから御覧になられました。専属じゃないので難しいとは思うんですけど、

○石川委員長　加藤主査。

○加藤総務課主査　町としてはですね、そのキントーンについて何か資料を取り寄せたりということはないんですが、私、個人的に、県庁のほうに２年間出向していた際に、県庁のほうは職員が使うそのシステムは愛南町ですとＮＥＣ社製なんですが、たまたま県庁のほうはキントーン、サイボウズさんのキントーンだったので、使用とかはですね、一応したことはあるところでして、ただ、その一応当時の見積り等で言いますと、ＮＥＣのグループウェアよりもたしかキントーンのほうが、サイボウズさんのそのグループウェアというシステムのほうがたしか高かった、金額的には高かったように記憶しております。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　その辺って専属がいないといけないと思うんですけど、いたとした場合に、例えばその県と、その、シェアしてもらうとか、その県内の自治体はキントーン使うように、こう安く設定してもらえるようにこう連携するとかっていうことは可能なんでしょうかね。検討したことありますか。

○石川委員長　本多課長補佐。

○本多総務課課長補佐　キントーンについては、上島町さんのプレゼンでリモートで拝見したことがあります。それが共同調達のような形で全自治体が安い単価で入れるかというと、今のところそこまでの検討がなされていないので現状ではできないんですが、キントーンのシステムが利便性が高いとかいうことで浸透していけば、後々は県主導で共同調達をしていくっていうことは考えられます。実際、ロゴチャットという業務用のチャットツールについては、共同調達によって愛南町も今年度から限られた部署ですけど使うようになるんですが、それらについても、現状参入していない自治体についても、入るときは共同調達の単価で利用ができますよということで門戸は開かれている状態になっておりますので、そういう形の利用をキントーンでもできる可能性はあると思います。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　ありがとうございます。で、それを検討していくにしても、やっぱり専属でないともう不可能ではないかと思うんですよね。で、今週、来週、その毎日会議をね、愛媛県がやってくれても、それを消化して、そのね、実行に移すっていうところができないっていうのは、本当にストレスにもなるし、もったいないと思うんですけれども。で、やっぱりそれを、それ進めるためには、少しお話もありましたが、やっぱりトップがこのＤＸの必要性っていうことをしっかり理解して、リーダーシップをとってもらわないといけないと思います。

　黒潮町のプレゼンの中でも、やはり最後の方はっきり言われていました。やっぱりそのＤＸ進めるとなると、改革なので反対勢力の力はすごく強いということだったので、リーダーシップと共にボトムアップ、両方連携して情報共有しながらしていくことが必要だと思うんですけれども、その、じゃトップに、じゃ必要性を理解してもらうにはどうしたらいいか、なぜ必要性を理解してもらえないのか、どうしたらしてもらえるのかっていうとこなんですけど、私は、黒潮町のお話を聞いて、やっぱりそのＤＸの一番のそのメリットというか重要な点っていうのは、職員の方たちの仕事の合理化だけじゃなくて、本来の目的というところは、やっぱり住民本位で、住民起点で行政を考え進めていくっていうところだと、何度もね、強調されていましたよね。やっぱりそこを、本当の住民のニーズを汲み取って移していくために必須のことだと思うんですけれども、そこをそのトップに分かっていただく必要があるのではないかなと思うんですけれども、それは、その県の研修なりお話の中で、各自治体トップにそういうお話をする機会とかはなかったんですかね。もしくはこれからなんでしょうかね。それと合わせて、愛媛県のその会議の１日の所要時間も合わせてお願いします。

○石川委員長　本多課長補佐。

○本多総務課課長補佐　まず、理事者に対しての県等からの話というところでは、恐らく、個別にはこの事業を推進するので協力してくださいというような個別の事業の内容についてのアプローチはあったとしても、一律にこういうＤＸについて進めていくので積極的な参入をというような話というのはないんではないかと思います。すいません、過去に既にあった場合はちょっと私のほうも把握はしていないんですけれども、少なくとも去年とか今年度に関しては話を聞いたことはございません。

　あと、会議の時間なんですけれども、県自体が行う会議もあれば、県が委託している専門家とか、こちらがもう既に事業として関わっている委託先の事業者との打合せ等もそれぞれ分かれてはいるんですけれども、概ねは１時間から、かかっても２時間以内で終わるというものになってはおります。ただ、頻度が割と多いことと、分野がたくさん分かれているために、結局はこう単独で持っていたり、こう少人数で持っている場合には全てここが受皿になりますので、会議の開催回数が多くなるというところで、出張じゃないだけまだましであるというところで、リモートでこの、この場にいながら入れますので、移動のロスタイムはないんですけれども、それでも今年度に入ってこれほど会議が多いものかというのは改めて感じたところであります。ただ、時間的には半日潰れるとか、１日丸々潰れるっていうのは滅多にありません。委託先の事業者がこちらを来庁するというようなときには随行する必要もあったりしますので、そういうときには半日だったり１日になりますが、基本的には１時間か２時間です。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　ありがとうございます。じゃあ、その、その会議が年間どのぐらいの時間、去年がすごく、昨年度はすごく少ないのであれば今年度になってからでもいいんですけど、どのくらいの時間を割いていて、なおかつ、それをね、情報いただいたことを、実際に愛南町で前に進められたことが、感覚でいいんですけれども、費やした時間のその内容の中で何割ぐらいだと感じますか。

○石川委員長　本多課長補佐。

○本多総務課課長補佐　今年度に入ってからの会議の時間だけで言いますと、もうちょっとはっきりとは言い難いところはあるんですが、集めればやっぱり１週間とか１月当たりまるまる１週間分は会議か来庁の対応か各課の調整っていうのも実際ございます。私たちが事業の主担当課ではないので、あくまでそのＤＸを手段として事業をするのは別部署ということになりますので、そことの調整なども含めると、やはり１週間、月、毎月１週間以上は時間取られると思います。

　で、そうですね、県からの事業の薦め等でこちらがどれぐらい携われているかといいますと、去年の段階で既にその実施することが決まっていたファボタウンという事業と、トライアングルエヒメという事業の中の１つの事業なんですが、これらとか、ロゴチャットも今回始めます。で、あとは、一昨年、去年から正式に稼働した市町業務標準化という、介護の分野と児童福祉の分野で電子申請が可能であったり自動の結果判定ができるというような、これらも今年度も引き続き改善しながら進めているところではあるので、進めている分野は５割以上は結局やっていると思うんですけども、県は実はそれ以上に、これもしませんか、あれもしませんかという形で求めてきているんですが、さすがにちょっと今の財政ではこれ以上は携わり難い。で、来年度は来年度でまた何か事業展開を考えるべきで、それについても考えているところはちょっとあるんですけれども、実施するに当たっては、やはり体制と予算も絡みます。あと、何より原課の協力っていうのが必要になってくるので、そこからの調整を経た上でこういった事業を展開していけませんかというのを協議できたらとは考えております。以上です。

○石川委員長　金繁委員。

○金繁委員　すいません。じゃあ、内容的には半分程度できているということなんですけど、これ、

ますます今後、県から来る情報というのが仕事としてこう細分化されてくるんじゃないかと想像するんですけど、そしたらもっとこう手に負えなくなるというか、いう方向に行くのかなと思うんですけど、それはどのように予測されていますか。

○石川委員長　本多課長補佐。

○本多総務課課長補佐　そうですね、もうＤＸ担当者だけでなく、ＤＸ担当者が間に入らなくても担当者と直接事業展開が進めていけるものについては直接のパイプをつなげるということも考えていかないと、もうＤＸって言われても本当に際限がなくて、あくまで手段であるはずなので、事業展開をする部署も当事者意識を持ってもらって、積極的に協議の場に入る、運用の場に入ってきてもらうっていうことをしていかないとパンクすると思います。専属がいてもパンクすると思います。そのためには、やはりＤＸ知識の共有、職員への教育ということで、内部的な研修なり何なりが必要なんだなと感じております。

○石川委員長　吉村委員。

○吉村委員　職員にこれ以上聞いても、もう職員前向きで発言されるけども、要は予算も絡むことやし、トップの、どこ行ってもそうですけども、先進地いうのはトップの姿勢ひとつなんで、さっきトップダウンでこうこうでこうでいう話もちょっと職員から出とったんやけど、そういうことでええんやないですか。もう職員の質問はもうあとは。

○石川委員長　分かりました。一応これで質問は打ち切りたいと思いますが、よろしいですか。はい、ありがとうございました。職員の方は退席していただいたら。

（執行部退席）

○石川委員長　それでは、ＤＸの促進についての調査研究ということで取りまとめをしていきたいと思いますが、よろしいですか。

視察もして課題も見えてきたような状態だというふうに認識しておりますので、取りまとめについては、委員長、副委員長に一任していただいたらと思うんですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

（「はい」と言う者あり）

○石川委員長　取りまとめについての御意見ありましたら。

金繁委員。

○金繁委員　今日、職員の皆さんの感想を聞いて、現状がよく分かりました。で、こうあるべき姿というのも黒潮町のお話聞いて大体分かったんですけれども、愛南町の課題が鮮明になってきたと思います。

職員の方たち、専任の方がいらっしゃらない、それから、トップのリーダーシップがちょっと欠けているんじゃないかということが推測されたんですけれども。職員の方の現状は、県が一生懸命やっていても、職員の時間的に、１か月当たり１週間だから４分の１以上の時間を割いているにもかかわらず、専属ではない、兼任であるため、仕事としては県が期待するもののうちの半分程度しかできていないということで、非常に苦しい現状だと思います。ぜひですね、そのＤＸは、黒潮町の研修の中にもありましたけれども、改善というステージだけではなくて、改革のステージ、それは住民本位の、住民起点の発想でやって変えていく、改革していくことであるということを愛南町のトップにもぜひ理解いただいて、そのチーム、黒潮町の場合は、専門家２人と職員２人の４人、４人の専属チームを作っていらっしゃいましたけれども、体制づくりをしっかりと進めていただきたいと思いました。以上です。

○石川委員長　ほかにありませんでしょうか。

（「なし」と言う者あり）

○石川委員長　ないようでしたら、委員長、副委員長に取りまとめについては一任いただけますでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○石川委員長　はい。ありがとうございます。それでは、報告書については正副委員長の一任ということで進めさせていただきます。その他、何かありますでしょうか。

（「なし」と言う者あり）

○石川委員長　はい、なしということなので、これで終わります。

○池田副委員長　長時間ご苦労さまです。以上で総務文教常任委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

総務文教常任委員会委員長